

## 教育民生常任委員会 摘 録

1. 開催日 令和5年9月4日(月) 第2委員会室
2. 出席委員 五島誠委員長 前田智永副委員長 赤木忠徳 横路政之 宇江田豊彦 藤木百合子
3. 欠席委員 なし
4. 事務局職員 橋本和憲議会事務局主任主事
5. 説明員 なし
6. 傍聴者 なし
7. 会議に付した事件

### 1 子育て支援について

---

午後2時55分 開 議

- 五島誠委員長 ただいまより教育民生常任委員会を開催します。本日、傍聴を許可していますが、傍聴はおられません。
- 

### 1 子育て支援について

- 五島誠委員長 きょうは、子育て支援について、先週、先々週と、管内視察、行政視察を行いましたけれども、そのまとめをしておこうと思います。よろしく願いいたします。まず、永末の放課後児童クラブへ行きました。そちらの課題といたしますと、放課後児童クラブが狭小で、ことしの春に永末保育所へ仮移転をされた経緯があります。そうしたところを含めて、一度皆さんで拝見しようということで行かせてもらいました。皆様方で参考になった事項、あるいは、課題、問題点と感じた事項などがありましたら言ってください。よろしく願いいたします。宇江田委員。
- 宇江田豊彦委員 もともとは僻地保育所で、今も設置管理条例の中に僻地保育所としての位置づけがあります。ですから、保育所機能を装備したまま仮で活用している状況で、本格的に手を入れて改装することはできない。つまり、保育所規格として存在しているので、使用する子供たちの年齢には適合しないという実態があります。ですから、本質的には、そこを、今後どのようにしていくのか、展望を明らかにしていかなければならないと思います。だから、僻地保育所を解消して、放課後児童クラブに位置づけて改装していくのか、あるいは、別のところ、もともとのところで建て替えて放課後児童クラブをするのか、その辺の方向性が明らかにならないと、今後の予算対応についても全く考えられないという状況だということが、一番大きな、本質的な課題だと拝見いたしました。
- 五島誠委員長 他にありますか。赤木委員。
- 赤木忠徳委員 課長とも話をしたのですが、最終的に決めるのは地域の方々です。決める順番としては、まず、保育所を再開するのかわからないのか。しないということになれば、当然、放課後児童クラブとしての役割をしていく必要があるかと思います。そこらあたりを、はっきりと、地域の意見を集約する必要があると感じました。それから事業が始まるのかなと思います。
- 五島誠委員長 他にありますか。横路委員。

○横路政之委員　私も同じような意見なのですが、今のような形態だとどうにもならない。施設改修をしても元に戻さなくてはいけないという縛りの中では、今後、放課後児童クラブとして展開するには限界があると思います。宇江田委員が言われたように、地域の同意を得て、使用目的を変えた段階で今後の方向性が決まるのではないかなど。赤木委員が言われたように、地域の方がどう思っているかを執行者のほうで詰めてもらって決めていかないと動かないと思いました。

○五島誠委員長　藤木委員。

○藤木百合子委員　私も同じような意見なのですが、放課後児童クラブは小学校とも非常に絡んでくると思います。どうしても、小学校の児童数の関係が放課後児童クラブとあいまってくると思います。現在、100名近い小学生がいる中で、小学校がそのまま存続していくのかが、私は教育条件整備としてどうなのかなというのと、先ほど皆さんが言われたように、保育所に関して、地域の皆さんは置いておいてほしいというのもあると思います。そこら辺の意見をどうやってくみ上げるかというのが非常に難しい問題だと思います。

○五島誠委員長　副委員長どうですか。何かありますか。

○前田智永副委員長　ある意味、学校の統合問題のときと似通った資質の問題が出てきているのかなどと思いました。その地域の思いと保護者の思いをどのように統一して決めていくのかが、今後、本当に大事になってくると思うので、そこに行政が入るのがいいのか否かというのも含めて、地域の方にもしっかりと考えてもらって、今の子供たちにどうしてあげるのが1番いいのかを早急に話し合ってもらいたいと思います。

○五島誠委員長　これだけは言っておいたほうがいいのかということが他にありますか。赤木委員。

○赤木忠徳委員　統合問題がありましたけれども、地域の皆さんがどういう思いかは、いろいろとあると思います。いろいろと聞いてみますと、昔からその地域におられる方と、よその地域から新たにいられた方で考え方が違うのです。よそから来た人で、庄原小学校に行くと、その代わりに、保育所だけは近くで見てもらいたいという考え方の方が中にはおられます。これは1つの手です。学校を統合して、いい環境の中で授業を受けさせる。保育児は地元の保育所へ通わせる。もう1つは、保育所はもうやめて、そこを児童クラブにするという考え方。教育委員会との兼ね合いも出てきますが、最終的には、そこらあたりを、自治振興区の中である程度まとめる必要があると感じます。だから、統合問題は、即、という形にはないと思いますけれども、いろいろな意見が出ているのは私も聞いています。そこらあたりを、先ほどから言うように、取りまとめて、我々が出て行ってどうのこうのではなく、我々も、学校の合併はだめというのではなく、本当に地元の人が何を求めているのかという形で、寄り添って、方向性を出してあげることが必要だと感じました。

○五島誠委員長　宇江田委員。

○宇江田豊彦委員　保育については、考える視点がいろいろとあります。あそこは、設置管理条例でいうと、僻地保育所の位置づけがされているということで、自園調理を必要としない、それから、ライセンスについても規定がないという非常に緩やかな運営です。それからもう1つ、一番大きいのは、延長保育がないことです。それが今日の保育のニーズに合っているのかどうか。今は希望者がいないのが実情です。そのことも含めて、地域の皆さんに判断を任せてよいのかどうか。だから、一歩踏み込んだ議論を進めるとすれば、委員会として公聴会をしてもいいと思います。教育民生常任委員会として、地元へ入って行って御意見を伺うようなことを。今までの議会の議論の方向でいえば、

執行者に対して、そういう聴取をなさないと。どういう議論があったのかを取りまとめて議会に報告して、執行者と議員だけの話になっていました。しかし、二元代表制なら、議会として、独自にそういう方向性を模索して、一定の結論を方向づけることもあっていいのではないかと思います。地域に大きな課題を投げかけて、地域だけの判断を求めるとするのは酷な気もするので、そういうことも一考すべきではないかと私は思います。

○五島誠委員長 横路委員。

○横路政之委員 宇江田委員の考え方も一理ある。ただ、実行に当たっては、この委員会の中で相当詰めて行く項目が多々あるなど。議会から来て意見を聞いてもらったと。住民の方は、何かしてくれるだろうと。これは、前に進むような希望的観測を与えてはいけないことはないですし、そういった手法も否定するべきものではないのですけれども、もし実際にするとすれば、そこら辺を、詳細にわたって、きちんとしたシミュレーションをしていかないと、この委員会で全てを受けて、ということにはなっていないのではないかと。少し不安材料があるなどという思いもしています。全てを否定するわけではありません。

○五島誠委員長 他の方はどうですか。先ほどの宇江田委員の提案に対して。藤木委員。

○藤木百合子委員 地域に任せて、意見の違いで地域が二分するようなことになっていけなく、今度は、議員が出て行って、ここまでしてくれるのなら希望が持てるな、という期待感で失望させていけなく、なかなか難しい問題だと思います。よく考えて進めても、速やかに進めなくてはいけなく、議題だし、なかなか難しいなと思います。

○五島誠委員長 宇江田委員。

○宇江田豊彦委員 なぜ私がそんなことを言うかといえば、保育制度、現行法の中でいえば、定員は市内の総枠で決まるわけです。例えば、永末の子供は永末保育所で措置をするという法的な基準がないのです。だから、契約によって保育がされることになっていますから、庄原市内のどこの保育所と契約をしても構わないことになっている。庄原市もそれを主要に言います。ですから、ここが手狭だと言うと、総枠では満たしていますという答弁をされる。もう整備されていますという答弁を一貫してされてきました。ですから、そのこともあるので、永末保育所を続けてほしい、ただし、普通の保育所にしてほしい、僻地保育所ではなく、他の保育所と同じように延長保育もできる、極端に言えば、病児病後児もできるような保育所にしてほしいという希望は絶対に出てくると思います。しかし、それが非常に困難だという現状があるのです。だから、総枠として、許認可の問題があって、庄原市がそれを獲得していくことは非常に難しいという側面もあると思います。一概に、地元の人で御判断してもらうことも難しいと思います。今、そこまで結論を出す、出さないという話ではないのです。

○五島誠委員長 いずれにしても、ここで全てを決めるわけではないのですけれども、先ほど言われた手法はどうあれ、この件については、もう少し私どものほうで、議会の中でも議論を進めないといけなく、あるいは、まだ、さまざまな調査も必要かと思えます。これは、今後も続けていくということで、委員皆さんの共通認識としてよろしいですか。そうした中で、今回の管内視察のまとめもあります。先ほど、皆さんから、さまざまな、参考になった事項や課題である事項をお伺いしましたので、そちらをまとめて、提言というか、これからどうしますかというのが大事なのですが、そうした中で、1つは、永末の保育所、放課後児童クラブを含めて、今後の方向性をどうしていくかを考えなくてははいけなく、決めていかなければいけない段階が次に来ると思えます。そうした内

容でまとめをさせてもらいたいと思います。先ほど、宇江田委員より、公聴会をしてみてもどうかという議論がありましたけれども、横路委員が言われるように、ではやりましょうというわけにもいかないで、その件については、次回の委員会も含めて、委員会のスタイルでやるのがいいのか、あるいは、もう少しじっくりばらんに、自由討議的にするのがいいのかは置いておいて、もう少し議論をしたいと思います。委員長といたしましては、宇江田委員の提案については、一考というか、できるだけする方向で進めていったほうがいいのかと思います。我々が、委員会の中で、ただ調査をして執行者に提案をするだけではなく、もう一步踏み出した形をこの委員会にとればと思います。言われるように、議論をする時間がまだまだたくさん必要なのはもうわかっていますので、皆様方で協力して協議を進めていきたいと思っています。では、永末保育所の件については、この程度でとどめていいですか。まだほか何か言い残しがある方は挙手してください。よろしいですか。それでは、続いて、先日、行政視察で岡山県奈義町に行きました。この際に、担当課の児童福祉課長も同行してもらい、日帰りではありましたが、有意義な研修になったのではないかと思います。その中で、この視察のまとめをしますので、まず、皆さんにお配りしています、個人で出されるときに使う様式と一緒にのですけれども、このひな形をもって、この委員会でのまとめをします。本市の課題は、もう行く前にさんざん言っていました。さらなる少子化対策、子育て支援の対策について、日本のさまざまなメディアで取り上げられ、首相も行かれ、次元の異なる少子化対策の視察現場として選ばれている奈義町を選びました。そうした中で、まずは、しごとコンビニに行きましたので、その中で、皆さん方で参考になった事項、課題、問題点等がありましたら、それぞれ、挙手をして言ってください。藤木委員。

○藤木百合子委員　しごとコンビニを見て、非常に面白い取り組みだと思いました。赤木委員が、シルバー人材センターと足したようなものだと言われて、そうだなと思いました。シルバー人材センターに子育て中のママさんたちの力を加えて、仕事を希望する人、仕事をしたい人をうまくマッチングするやり方が面白いと思って、庄原市でも何とか、と思って帰ってきたら、私もあまり詳しくは知らなかったのだけれども、庄原市にはファミリーサポート事業があると。庄原市も、そういうものをしていないのではないのだなと。だから、そこら辺をもっと、最低賃金ではないけれど、お金の面や、サポートする人をきちんと置いて、うまく運用できればいいなと感じました。

○五島誠委員長　他にありますか。宇江田委員。

○宇江田豊彦委員　先ほどの意見にも通じるのですが、非常に細かな、丁寧な取り組みをされているなと。30分単位でも働けるという説明をしてもらいましたが、実際は、ああいう細かな形での取り組みはなかなか困難です。でも、そこまで個々に応じた対応ができることによって、裾野を広げることが非常にうまくいっているのかなと思います。それも、範囲が、分母が小さい中で対応が可能なのかなとも思いました。今ある庄原の組織では非常に困難なのではないかなという感じは受けました。

○五島誠委員長　横路委員。

○横路政之委員　こういうことができる人口は5,000人までですと言われました。これ以上多くなると無理ですと。ということは、目配り、気配りができなくなるということ。庄原は、市町があるので、各市町でできるかといえば、無理と言ってはいけないのですけれども、課題が大きいなと思います。発想自体は、うまくしているなという感じはいたします。参考になった項目です。ただ、現実には、まねしてできるかといえば、かなり難しいと思います。

○五島誠委員長　他にありますか。赤木委員。

○赤木忠徳委員 全体的に、しごとコンビニにしても、チャイルドホームにしても、地域ぐるみで子育てをしていこうという考え方だなという感じです。庄原市も、市長が、若いお母さん方が集まっているいろんな情報交換をする場所をつくると言っています。ここに出ているのですが、そういう形で、ちょっとだけ預かってほしいとか、ちょっとだけ仕事がしたいとか、本当に上手に書いているなどと思います。そういう「ちょっとだけ」をうまく組み合わせてコンビニを行っているのはいいし、頼むほうからいえば、どうしても、シルバー人材センターに頼むと結構高いのです。そうではなく、小さい金額で、畑をしたいといったことも頼める。すごくうまくしているなど感じました。それから、お母さん方が3人集まって、2人が働きに行って、1人は子供をサポートするのですが、サポートする人にはお金が出ないのです。お互いに行っているのは、非常に助け合いの精神があって、うまく人をつなげているなど感じました。

○五島誠委員長 他にありますか。よろしいですか。続いて、奈義町全体の子育て施策を他の4議会と一緒に聞きましたけれども、そちらで参考になった事項、課題、問題点と感じた事項をそれぞれ言ってください。藤木委員。

○藤木百合子委員 高校生等の就学支援をしておられました。多分、庄原市にはないと思います。すごくお金がないとできないけれども、中学生までではなく、高校生、ある程度年齢がいった子供への援助。だんだんと成長していくにつれて、お金がかかるではないですか。そういう意味で、すごくいい制度だなという感じを受けました。

○五島誠委員長 他にありますか。横路委員。

○横路政之委員 経済的支援の項目で、大学生に奨学金を出します、卒業して奈義町に10年いてくれたらチャラにしましょうと。これは、かなりインパクトがあると思いました。藤木委員が言われたのもいいと思ったのですが、これは、通学に結構お金がかかっているの、そこを見越しての思い切った支援で、本市としては、どういう理由づけでいくのかがなかなか難しい。今ぱっと出てこないです。そういったことも感じました。そして、働く場所の提供なのですけども、説明する方が、津山市の30分圏内で、工業団地もいっぱい、企業誘致するのは至難のわざだと言われていました。そういった中で、仕事は津山でしてください、住むところは、奈義町に住んでください。こういった発想もそういえばありかなと。庄原市は、工業団地は新しく整備しない方針で、空いたところ使って誘致をしていく方針が変わったのですけれども、昨今の人材不足等々を考えると、新しい企業が来るのは至難のわざとなれば、企業があるところで働いて、子育てはうちでしっかりと支援するから、ここに住んでくださいという考え方もありかなと思いました。今のところはそこまでです。また気がついたら言います。

○五島誠委員長 他にありますか。赤木委員。

○赤木忠徳委員 庄原市でも、各課の支援策が出てきます。総合的に取りまとめると、庄原市もこれに負けないくらいのものであるにはあるのですが、各課で出しているから、子育てを中心に、こういうまちをつくりましょうというのが見えてこない。問題は、先ほど横路委員が言われたように、大学まで支援をしていくという考え方をしていれば、何かと言いますと、我々も、子供を何人にしようかなと、計画性を持って子育てをしてきたのですが、もう1人ほしいのだけれども、教育費がすごくかかるよねと。今のままでは教育費が出せないのが、子供がふえない原因なのです。そこらも含めて、このまちにいれば2人でも3人でも子育てができるという、安心感をうまく持たせたなど感じます。そ

これは、自衛隊があるがために、ある程度財政的に豊かなところだからできるのだろうとは思いますが、けれども、庄原市も、今まで行っていることを子育ての1つの柱として各課が取りまとめると、これに結構近いものがあると感じました。

○五島誠委員長 宇江田委員。

○宇江田豊彦委員 象徴的に、家族単位の結びつきが非常に強いと感じました。家でみとって亡くなる件数が高いという説明がありましたけれども、要するに、家族間のきずなが強く、互いに結びつきが強い中で生活をしていくことが、文化としてかなり根づいていることが伺えました。以前、教育民生常任委員会の視察で福井県の名田庄診療所にお邪魔したときにもそういうことをお伺いしました。そういうところが基礎にあるのではないかと思います。それから、経済活動をする上で、近くに中核都市がある。あまり大きい都市とは言えませんが、中核都市があつて、5,000人程度の規模の小さな町ですから、そこを拠点にして活動がしやすいという地の利があることを非常に強く感じました。

○五島誠委員長 他にありますか。横路委員。

○横路政之委員 宇江田委員が言われるように、安心感が1つのポイントなのです。住むところがあつて安心、働くことができ安心、子育ての負担が軽くなって安心、子育ての悩みや喜びを共有できて安心、町のみんが子育てを応援してくれて安心、これがうまく回っているのでみんなが来るのだと思います。だから、本市も、この6項目を念頭に置いて進めていけば、子育ての点に関しては、とにかく安心感です。これに尽きると思います。そう感じました。

○五島誠委員長 他にありますか。副委員長。

○前田智永副委員長 奈義町は、全体的に、見せ方が本当に上手だなという印象を受けました。道中に児童福祉課長と話をしたのですが、本市にもすごくいい取り組みがたくさんあるし、ファミリーサポートも、しごとコンビニとすごく似ている印象で、私もすぐにそう思いました。ただ、どれもうまく回っていないのです。その制度はあるけれども、知らない人が多い、活用できている、しきっている人がいないのをふだんからすごく感じています。そういうところで、もう1人産みたいお母さんたちに、どれだけ安心感を持って産みたいと思ってもらえるか、奈義町の各場所で伺うには、そのキーマンとなる方がどこもすごく強いです。しごとコンビニにしても、その事務所の人たちのサポートが強いからできる。チャイルドホームでも、キーマンになる方、すごく目が届いて、力量があつて、配慮があらにもこちらにもできる人がいて、その人が次の人につなげる形をどこでもとっておられるイメージでした。本市でそれをやっつていこうと思ったときに、もちろん、見せ方は重要で、これは行政がやっつていかないといけないし、我々議会がやっつていかないといけないと思うのですが、まずは、いかに皆さんに活用しやすい、入りやすいところをつくっていくかだと思います。パンフレットも見やすくつくつてはいるのだけれども、伝わらないのがなぜなのかを、助産師や保育士、児童クラブの施設の方、現場の人たちとしっかり話をして、若い人に口コミでどんどん広がっていくような取り組みをしていったほうがいいのではないかと思います。

○五島誠委員長 宇江田委員。

○宇江田豊彦委員 とりわけ、諸制度については、庄原市も結構いい制度を持っているのです。問題は、コーディネートなのです。それをどううまく組み合わせて、活用するのが十分にできていない。だから、本当はつながっていかねばならない諸施策が、単発で機能しにくくなっているのではないかと。奈義町の場合は、コーディネートがより光っている印象を持ちました。だから、今から、こうい

う具体的な諸施策をより活用してもらうための、コーディネートが大切になってくると痛感しました。

○五島誠委員長 他は大丈夫ですか。では、今、参考になった事項をそれぞれ言ってもらいまして、その中で、最後に宇江田委員からあった、コーディネートが必要だというのは、提言のようなところも見え隠れしているのですけれども、改めて、そういった、参考になった事項を受けて、今後、庄原市の施策をどのようにしていこうかという話をして終わりたいと思います。挙手をして発言をお願いします。赤木委員。

○赤木忠徳委員 お金をかけずに、その人の生きがいを非常にうまく利用している。お年寄りが子供を預かって、私も役立つのだという思いでチャイルドホームなどに参加されている方が結構おられました。実はきょう、うちの家内たちが、地域で、デイホームという、お年寄りを集めて皆さんで1日過ごすことをしているのですけれども、お年寄りばかりなのです。子供向けになっていない。これを、子供も一緒ですという形にしていけば、チャイルドホームなども地域ですぐにできるはずなのです。それも月2回ですけれども、そういう形のシステムをつくったら、結構できると思います。庄原市でも、人間の生きがいをうまく利用して、協力してもらうシステムをつくる必要があると思いました。

○五島誠委員長 他にありますか。藤木委員。

○藤木百合子委員 先ほどからでているように、庄原市も、いい施策をいっぱい持っていて、出産祝金なども遜色ないのだろうと。第一子に10万でしたか。あまり変わらないと思いました。先ほど前田副委員長が言われたように、見せ方、PRの仕方、あとはコーディネート、そこら辺が本当にポイントになって、本当に特徴ある人材をつくって、前面に出していくことも1つなのかなと思いました。

○五島誠委員長 宇江田委員。

○宇江田豊彦委員 実は、庄原市でもいろいろなことをしています。包括支援などはまさにそうで、西城市民病院に視察で行ったときも、障害者もいれば、高齢者の方もいる中で、生きがいづくりの取り組みをされて、より自発的に参加してもらっている実践例も目の当たりにしています。だから、庄原市の中でもそういう実践例があるのですけれども、1回視察をしたら、視察したところだけが過剰的に独立していつてしまっていて、うまくリンクしていない実情があるのだと思います。だから、我々も、総合的な捉え方をして考えていかなければならない。参考にはすればいいと思うのですが、庄原市でもそういう実例があることを踏まえて、検討をしていかなければならないのではないかと思います。

○五島誠委員長 横路委員。

○横路政之委員 奈義町は、東城町の4分の1の広さです。御存じのように、人口は東城町より1,500人くらい少ない、5,000人です。ただし、うちは1市6町、ものすごく広くて、いろいろな歴史を持った市町が一緒になった。そういった中で、庄原は子育てがしやすいという安心感を持ってもらうためには、コーディネートというか、まとめる力、これは、人材がいるといいます。私では、どのようにすればいいのかはよくわからない、知恵が出てこないのですけれども、そういった、広大な、いろいろな考え方、歴史が違うところが集まったのをうまくまとめるコーディネーターといったものができない限り、庄原は子育てがしやすいという感覚にはなっていないと思います。今後の庄原市の課題とすれば、そこら辺が大きなキーポイントになるのではないかなと。

○五島誠委員長 宇江田委員。

○宇江田豊彦委員 特徴的なことだから報告の中に入れておかなければならないのは、立地条件だと思います。中心市街地に8割の方が居住されていて、あとの2割の方が10キロ以内くらいのところに住

まれている状況ですから、政策を検討するときに、同じような環境の中で生活している人が圧倒的に多い。その中で、政策を検討するということは、簡単ではないとは思いますが、ある意味つくりやすい。だけれども、庄原の場合は、先ほど横路委員が言われたように、非常に多岐にわたる生活実態です。いろいろな谷筋全てに家があります。少数点在で、いろいろな条件下の中で生活をしているのが庄原市の特徴ですから、その中で1つの政策をまとめていくのは、より困難だと思います。それが特徴的な例だと思います。

○五島誠委員長 赤木委員。

○赤木忠徳委員 考え方から言えば、庄原赤十字病院に院内保育所があります。これも、皆さんが病院で働くために子育てができるという、よそにないすばらしい事業です。だから、今、コーディネートと言っていますが、もっと一括して、冊子をつくってしまうレベルのことをしていけば、庄原市も、本当に子育てがしやすい町になりつつあるのだな、と思います。これは、教育民生常任委員会の仕事だと、我々がまとめ役になってもいいと思います。ですから、そこらあたりを、ある程度まとめて冊子にして、子育てのまち宣言みたいなことも我々がやっていけば、今あるだけでも、よそにも負けないくらいのもものが結構あるので、もう一遍調べ上げて、1つの冊子にできるくらいのことをしていきましょうよ。誰かコーディネーターを、と言っていたらできないですよ。

○五島誠委員長 よろしいですか。皆さんからお話を聞く中で、奈義町の特異性、庄原市との違いは当然に踏まえながら、共通して思うのは、そうした、さまざまな子育て支援施策、あるいは、少子化対策をうまくコーディネートしてまとめておられるのが1点、それから、前田副委員長が言われたように、それをいかに外部に発信していくのか、その発信力の2点が今の庄原市には少し足りていないのではないかというのが1つ。それから、奈義町のさまざまな経済政策も含めて見る中で、庄原市に、もっとこういうのがあったらいいよねという部分として、就学前というよりも、むしろ就学後、あるいは、中学生、義務教育を終えた高校生、大学生くらいの大きなくりの子ども施策がもう少しあってもいいという意見があると感じました。何といても、さまざまな違いはあるにしても、結局のところ、少子化の最も大きな理由と言われているのが、若年層の可処分所得の問題。それをどうやってカバーするかの1つとして、そういった経済支援があり、もう一方で、働き方をどうしていくかの二本立ての少子化対策が必要だと個人的にも思います。そうした中で、奈義町は、安心感をキーワードにうまく進められているところがいいのかなと。奈義町役場の職員の方が正直に言われていましたけれども、奈義町も行政改革で職員数を半分近くまで減らされた中で、当然、小さい町ですから、自衛隊があるとはいえ、予算規模もそこまで大きくない中で、できることは限られていると思います。逆に言うと、空き家対策はほとんど進んでいない、できないと言われていました。そうした中で、子育ての部分や少子化対策に焦点を当てることによって、逆に、高齢者福祉もしっかりと進めていくという、1つの幹というか、核というか、そうした流れがあるのだと思います。奈義町は、町長選挙でいろいろと変わりますが、代々、そうした大筋はあまり変わっていないのだと、後で少し勉強しました。そうしたことも含めて、子育てをみんなです、子育てだけではなくて高齢者のみとりといったものをみんなです、そういった文化がつくられているのだと思います。庄原市も、まだまだやるべきことやできることがありますし、我々委員会も、まだまだできることがあるのではないかと思います。そうしたあたりを提案しながら、提案するだけではなく、さらに、研究も含めて、先ほど赤木委員が言われましたけれども、見せ方の部分も、コーディネーターを待つのではなく、こちらから、

我々がコーディネーターになったらどうかという意見までありました。そういったところまで、もう少しこの委員会で検討していければと思います。そうした格好で、皆さんの意見をまとめます。このまとめについては、最終的には、この委員会で子育て支援についての報告をしますけれども、そうしたところにも反映させてもらいます。そうしたものについては、また皆さんに、最後は1年半後に見てもらおうことになると思います。よろしくお願ひします。なので、子育て支援については、具体的な、永末小学校区の話もあるし、全体的な流れもあるので、視察に行ったから終わりではなく、引き続き進めさせてもらえればと思います。よろしくお願ひいたします。それでは、きょうの協議事項は以上となりますので、この程度で閉じようと思います。次回の委員会なのですけれども、今、定例会開会中ですので、毎日してもいいのですが、一応、9月15日に設定をしています。そこをあえて外す必要はないかなと思いますので、9月15日の日程で行いたいと思います。事務局、こちらに要望書、陳情書などが送付されてくる予定がありましたか。

- 橋本和憲議事事務局議事調査係      健康保険証の継続を求める意見書採択を求める要望書が1件あります。
- 五島誠委員長      9月15日に委員会を設定しているので、その日でもいいかと思ひます。9月15日の10時からでよろしくお願ひします。教育民生常任委員会を閉じます。

午後3時46分      散      会

---

庄原市議会委員会条例第30条の規定により、ここに署名する。

教育民生常任委員会

委員長